

12-10right\_12-10left.JPG 2018/11/24

12-10right

廿七日戌 陰漸晴

炎度九十一度(撰氏 32.8度)

常司方より□年の新箸(\*1)の赤飯一重贈り越す、義雄御用召布政局より奉書、牧田貞方に届く

旨にて承り書は同人方にて取計、猶使の者を以□し来る、夜半を過ぎ名代も取計呉趣也  
常司方より桃二十五数贈らる

廿八日亥 晴

炎度九十三度(撰氏 33.9度)

横地六隠居久同道来り、一時□聞<sup>3</sup>し融金受取に来る證書、並額銀持来す□□遣  
義雄用召御用聞として八蔵□□に柴山内<sup>2</sup>□局へ出す、牧田貞よりの、示に従ふ也  
□□□過ぎ

八蔵帰り来られ人減、並修業留等中に付、義雄儀□□免は旨也、□途秋山牧田へも立  
より

其段申し通せし趣

廿九日子 雲夕遠雷霎(\*1)雨

12-10left

此命御用次第東京義雄方へ雁書差立に遣し候、此飛脚屋幸便近きに無し趣にて持  
返る、他の飛脚屋へ遣し□、八蔵へ時の労を謝し□料二方を遣す、旧奴文蔵□来り  
□茄茗荷白瓜等持来、村内□等八幡社にて神楽の奏あり、挙家何れも賽す

七月

朔日丑 晴雲午下雷雨一過□陰

□司方より餠糕を贈らる、八蔵妻枕□赤飯一重贈り来る、右賀としてこち(\*2)一尾  
贈り遣す、蓮沼勘より鱸(すずき)魚中小二尾を贈り来る、常司方より桃二十五数贈らる  
二日寅 濃陰午下雨断続

\*1: 新箸(にいばし)、六月下旬頃の豊作祈願行事、茅などの箸で食べる。

\*2:「ちち」、魚の種類(高級魚)

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読はできません。